

「行革甲子園 2018」エントリーシート

【取組の内容】

1 取組事例名

定期運航から民間海上タクシーを活用したデマンド運航への転換

2 取組期間

平成28年10月～平成33年9月（5年間）

3 取組概要

- 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、離島内陸上交通の再編を行うとともに、全国初となる海上交通の再編を含む「五島市地域公共交通再編実施計画」を策定。
- 市営交通船2航路（富江－黒島航路及び奈留島－前島航路）について、旅客船による定期運航を海上タクシーによるデマンド運航に転換。

4 背景・目的

- 人口減少による市営交通船2航路（富江－黒島航路及び奈留島－前島航路）の利用者の低迷から、経営赤字が常態化。
- 島嶼間の離島航路は旅客・物流交通を支える生活に必要なインフラであるため、サービスを維持しながら財政負担の軽減を図る必要がある。
- デマンド運航に対する国の財政支援を受けことを目的に、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、離島内陸上交通の再編を行うとともに、全国初となる海上交通の再編を含む「五島市地域公共交通再編実施計画」を策定。

5 取組の具体的内容

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、離島内陸上交通の再編を行うとともに、全国初となる海上交通の再編を含む「五島市地域公共交通再編実施計画」を策定。

海上交通については、以下の内容のとおり、需要動向を考慮し、定期運航からデマンド運航に転換。

【富江－黒島航路】

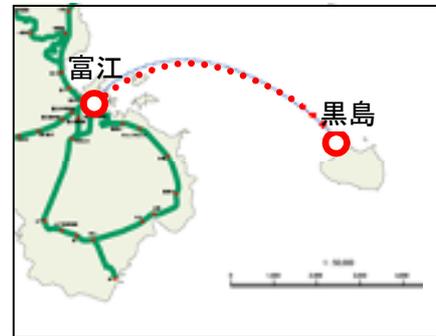
➤市営交通船「ニューとみえ」を廃止し、海上タクシーを利用した予約制のデマンド運航に変更

➤時刻表

便	黒島発	富江着	富江発	黒島着
1便(予約制)	8:00	8:15	8:20	8:35
2便(定期運航)	14:45	15:00	15:30	15:45

➤予約等

- ・平日のみの運航。ただし、火曜日の第2便は定期運航。
- ・3日前までに予約する必要がある。
- ・土曜日、日曜日、祝日、1月2日、1月3日は運休。火曜日が祝日及び1月2日、1月3日にあたる場合または欠航したときはその翌日（水曜日）に運航。海上タクシーの旅客定員は12名。



【奈留島－前島航路】

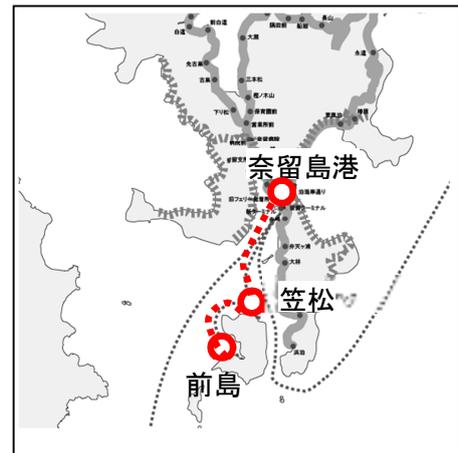
➤前島航路の老朽化した市営交通船「津和丸」を廃止し、予約制のデマンド運航に変更

➤時刻表

便	前島発	笠松発着	奈留島港着	奈留島港発	笠松発着	前島着
1便(予約制)	7:10	7:18	7:25	10:45	10:52	11:00
2便(定期運航)	11:05	11:13	11:20	14:30	14:37	14:45
3便 (4月から9月) 予約制	14:50	14:58	15:05	18:20	18:27	18:35
3便(10月から3月) 予約制	14:50	14:58	15:05	17:20	17:27	17:35

➤予約等

- ・第1日曜日、第3日曜日、第5日曜日、元日は運休
- ・第2便は定期運航。第1便と第3便は乗船希望者からの予約があった場合にのみ運航。
- ・第1便及び第3便の予約・キャンセルは、運航の1時間前まで。



6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

【新規性】

➤地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、離島内陸上交通の再編を行うとともに、全国初となる海上交通の再編を含む「五島市地域公共交通再編実施計画」を策定。

7 取組の効果・費用

▶新船を建造せずに民間の海上タクシーを活用したデマンド運航としたことにより、経済的、効率的な運航となった。

▶市の繰入金を抑制することができた。

	H27	H28	H29
市の繰入金	16,830 千円	14,009 千円	0 円

▶奈留島～前島航路においては、今後、浮体式係船岸が整備されることから、乗降時の安全確保が期待できる。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

▶船舶の老朽化による財政負担の増大及び船員の高齢化により事業継承が懸念される。

▶定期航路から民間海上タクシーを活用したデマンド運航に転換することでサービスを維持しながら持続可能な事業運営体制を構築するとともに財政負担の抑制を図った。

9 今後の予定・構想

▶海上タクシー運航事業者からの定期的な運賃収入の納付及び運航に関する報告により利用状況の定量的な把握及び分析が可能。

▶問題点が生じた場合には、聞き取り調査や住民説明会を開催して課題を整理し、必要に応じて適宜見直すこととしている。

▶乗降時の安全確保及び待合所の確保が課題となっているため、今後は浮体式係船岸や簡易待合所の設置を検討する。

10 他団体へのアドバイス

▶離島航路は、地域住民の生活に必要なインフラとして非常に重要な役割を担っている。一方で、人口減少や高齢化が進展するなか、今後の地域交通サービスを展望すると、サービスの低下や事業の持続性が懸念される。

▶今後は地域の特性に応じた効率的で持続可能な交通サービスの構築が求められる。そのためには、住民・事業者・行政が有機的に連携し、各々が当事者意識を持ち、相互に理解、尊重しながら柔軟に対応できるような信頼関係を構築することが重要である。

11 取組について記載したホームページ

【富江－黒島間のデマンド運航】 <http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/living/index904.php>

【奈留島－前島間のデマンド運航】 <http://www.city.goto.nagasaki.jp/contents/living/index905.php>